

授業科目 アメリカ文化研究特論	単位 2 単位
授業担当者 齋藤 晃	授業期間 後期
授業の題目と概要 題目：南アメリカのエスノヒストリーに関する講義 概要：16世紀初めのヨーロッパ人との接触以後の南アメリカの先住民の社会と文化の歴史の変遷を跡づける。	
授業の内容と計画 内容：南アメリカの先住民は、16世紀初めのヨーロッパ人との接触以後、社会と文化の両面で大きな変化を強いられた。社会的には、新たに創設された先住民の町を基盤として政治組織の再編成が進み、文化的にはキリスト教への改宗が促された。その結果、北から南、高地から低地にかけて著しい多様性を示していた先住民の社会と文化は、植民地時代を通じて次第に画一化していった。また、それと並行して、ヨーロッパ伝来の制度や慣行を援用するかたちで、新たな社会と文化の創造が試みられた。本講述では、こうした変化の軌跡を地域的な多様性を考慮しながら跡づける。 計画：担当教員の研究室において、参考書・参考論文を随時参照しながら、講述を進める。授業の日時に関しては、学生と相談して決定する。なお、受講にはスペイン語の知識が必要である。	
使用する参考書、参考論文等 ジョン・H・エリオット『旧世界と新世界 1492-1650』岩波書店、1975 染田秀藤編『ラテンアメリカ史－植民地時代の実像』世界思想社、1989 網野徹哉『インカとスペイン帝国の交錯』（興亡の世界史 12）講談社、2008 岡田裕成・齋藤晃『南米キリスト教美術とコロニアリズム』名古屋大学出版会、2007	
成績評価基準 授業への出席率（30%）、議論への参加度（30%）、自主設定のテーマによる口頭発表（40%）により評価する。	
その他の留意事項	